

大宰府条坊跡第 314 次調査

～平安時代の人々が暮らしたまちのようす～

発掘調査の概要

調査名：大宰府条坊跡第 314 次調査

所在地：太宰府市都府楼南 2 丁目 500 番 7 ほか

調査期間：平成 28 年 1 月 12 日～ 3 月上旬



調査地周辺地図
■ 314 次調査区
■ 近隣の過去の発掘調査地点 (数字は調査回数)

今回の発掘調査で見つかったもの

遺構編 ～調査で見つかった主要な遺構～

調査地は後世の開発で削平されているものの、井戸 3 基、土坑 3 基、掘立柱建物 2 棟、柵列 2 列と複数の小穴が確認されました。

井戸 1

11 世紀後半頃につくられたと考えられる井戸の跡です。井戸には木で井戸枠を設けていたと考えられますが、枠材は朽ちてしまったためか出土しませんでした。井戸からは、中国から輸入された白磁の椀や、土師器の皿の破片などが出土しました。また、石製のベルト飾りや、北宋（中国）のお金も出土しました。



調査区全景 (北東から)



井戸 1・柵列 1・土坑 1 (南西から)



土坑 1 遺物出土状況 (南から)

柵列 1

井戸 1 の東側と北側を囲むように並ぶ柱穴の列です。配置状況から井戸 1 と同時期にあったと推定され、敷地の西側と東側を区画する機能を果たしたものと考えられます。

土坑 1

12 世紀前半のほぼ完全な形の土師器の器が器種ごとに重なってまとまって出土しました。



掘立柱建物 1

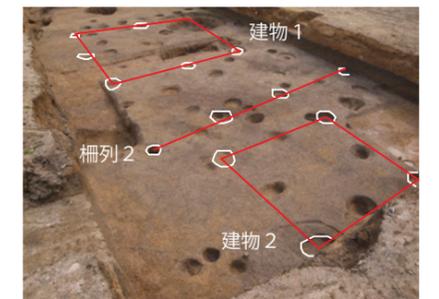
素掘りした穴に木柱を立てて建物にしたもので、現状で 2 間 × 2 間です。南東隅の柱穴は、井戸 1 に切られて見つかりません。つまり、井戸 1 より前に建っていた事がわかります。

掘立柱建物 2

現状で 1 間 × 1 間が確認される建物です。

柵列 2

掘立柱建物跡 2 の東側に南北方向に並ぶ柱穴の列です。



建物 1・2、柵列 2 (北西から)

出土遺物編 ～調査で出土した遺物～

土師器の器を主体に中国から輸入された陶磁器などがパソコンテナ 5 箱分ほど出土しています。

①巡方 (じゅんぼう) 【井戸 1 出土】

古代官人などが身につけたベルトの飾り (石帯) の一種です。表面はきれいに磨かれ、裏面にはベルトに縫い付けるための穴が四隅に開けられています。



土師器 坏・小皿 (土坑 1 出土)

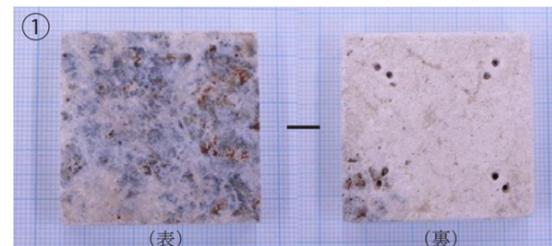
②北宋銭「熙寧元寶 (きねいげんぼう)」【井戸 1 出土】

北宋 (中国) で熙寧年間 (1068 ~ 1077) に造られた貨幣です。

中国の窯で焼かれた陶磁器です。



白磁 皿 (土坑 3 出土)



(表)

(裏)

巡方



北宋銭



(拓本)

当時は日宋貿易が盛んで、宋の貨幣をたくさん輸入しました。



発掘調査でわかったこと

出土した遺物の時期より、今回の調査で確認された遺構群は 11 世紀後半から 12 世紀前半頃 (平安時代後期) を中心とするものと考えられます。調査地の近隣でも、西隣の第 222 次調査や南側の第 122 次調査で、同様の時期の井戸や建物跡が多数確認されています。

この一帯で当時の人々が生活していたようすをうかがい知ることができる貴重な調査成果を得られました。



大宰府条坊跡って？

太宰府市と筑紫野市にまたがる広範囲な遺跡の名称で、主に、大宰府政庁の南に広がっていた、東西方向の道 (条路) と南北方向の道 (坊路) で基盤目状に区画された古代の都市の遺跡です。中央を南北に通る大きな通り・朱雀大路を中心に西側を右郭、東側を左郭と呼び、今回の調査地は、右郭 10 坊 12 条 (1 区画を 90m 四方と推定した場合) にあたりますが、これまでの調査で右郭 8 坊より西に条坊区画は確認されおらず、調査地一帯は平安時代は条坊の外にあたると思われるようになっています。



★ 314 次調査地の位置

「まるごと太宰府歴史展」展示より